

**UNITIKA**  
We Realize It!

ユニチカ CSR レポート

**UNITIKA**  
**Group**

Corporate Social  
Responsibility Report 2014

**2014**

Anniversary  
**125th**  
創業125周年

# CONTENTS

トップメッセージ ..... 2

## マネジメント

- 編集方針 ..... 3
- 会社概要 ..... 4
- 経営理念 ..... 5
- コーポレート・ガバナンス ..... 5
- 内部統制 ..... 6
- CSR推進体制 ..... 7
- 環境管理・安全衛生管理 ..... 7
- 安全保障輸出管理 ..... 7
- 情報セキュリティ管理 ..... 7
- コンプライアンス推進のために ..... 8
- ユニチカ購買方針 ..... 9

## 社会性報告

- お客さまとのかかわり ..... 10
  - 安全な製品を提供するために ..... 10
  - 品質保証活動 ..... 10
- 株主と投資家の皆様とのかかわり ..... 11
  - IR活動の状況 ..... 11
  - 株式の状況 ..... 11
- 地域社会や地球環境とのかかわり ..... 12
  - 地域社会に対する取り組み ..... 12
  - 環境・生物多様性保全に対する取り組み ..... 13
  - 防災活動への取り組み ..... 14
- 従業員とのかかわり ..... 15
  - 人事制度 ..... 15
  - 人材育成の取り組み ..... 15
  - メンタルヘルスへの取り組み ..... 15
  - 均等な機会の提供 ..... 16
  - 人権啓発推進への取り組み ..... 16
  - 安全衛生に対する取り組み ..... 17
  - 石綿関連の現状と対応 ..... 17

## 環境報告

- 環境基本方針 ..... 18
- 環境保全活動 ..... 19
- 環境中期計画 ..... 20
- 大気と水域への環境負荷低減 ..... 21
- 化学物質管理への取り組み ..... 22
- 物流にかかわる環境負荷の低減 ..... 22
- 環境に関する苦情 ..... 22
- 環境負荷の全体像 ..... 23
- 環境会計 ..... 24
- 環境保全のための商品と技術 ..... 25
  - 植物由来のバイオマス素材／テラマック® ..... 25
  - 環境配慮型スーパーエンジニアリングプラスチック／ゼコット® ..... 25
- ユニチカ復興地域再生支援チーム ..... 26
  - 廃棄物保管・運搬 ..... 26
  - 調査・計測 ..... 27
  - 除染関連 ..... 27
- 事業所情報 ..... 28





ユニチカ株式会社  
代表取締役社長執行役員

注連 浩行

#### 創業当時から継承している思想

2014年、多くのステークホルダーの皆様からのご支援・ご愛顧により、ユニチカは明治22年尼崎紡績の創業から125年、昭和44年のユニチカ誕生から45年という節目の年を迎えました。

「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」という経営理念のもと、「人々の生活と環境に貢献し、社会的存在感のある企業」をめざし、同時に、創業当時から現在にいたるまで地域や社会との共生をめざした事業活動を行っています。

当社の前身である尼崎紡績の創業は、新産業を興すことによる町勢の活性化など、「廃藩後の地域に貢献したい」という理由があったと伝えられており、私たちも地域、社会、お客様といったステークホルダーの皆様と共に成長し、共に夢を叶えていく「共存共栄」という思想を現在も持ち続けています。

#### 新中期経営計画と『ビジョン2020』

当社は2014年5月に、成長戦略の加速、事業ポートフォリオの改革等を骨子とした新中期経営計画を発表いたしました。

この新中期経営計画は、ユニチカの持続的成長をめざし、新生ユニチカを実現する計画であり、計画の策定・実行により、2012年に策定した長期ビジョン『ビジョン2020』の実現に向けて、企業価値の最大化に取り組んでまいります。

『ビジョン2020』の中では、「お客様と共に成長し共に夢を叶えていく企業」、「グローバルに存在感のある企業」、そして「全てのステークホルダーに満足を与え従業員が誇りを持てる企業」、これらを当社グループの「あるべき姿」として示し、基本方針として「機能資材事業をさらに強化する」、「環境配慮型商品でトップシェアを目指す」、「新素材の開発、新市場・新用途の開拓を強化する」を掲げています。

「三断二性」とは、その三断にあたっては、道を間違えないよう理性と知性をもって何が正しいかを考えること、つまりはコンプライアンス意識にもつながるものです。

#### 「三断二性」

私には座右の銘としている「三断二性」という言葉があり、これは、「判断力、決断力、断行力 知性、理性」をもって、厳しいことも乗り切っていくということですが、「三断」とは、勇気と決意をもって判断・決断し、決めたことは必ず断行するという意味があります。

「二性」とは、その三断にあたっては、道を間違えないよう理性と知性をもって何が正しいかを考えること、つまりはコンプライアンス意識にもつながるものです。

当社は今までも法律や国際ルールをただ順守するだけでなく、私をはじめ役員や従業員一人ひとりが社会的良識を持って行動することを『ユニチカ行動憲章』で宣言し、また常に正しく適切な行動を取ることを『ユニチカ行動基準』に定め実践してきましたが、改めて「二性」の確認と、私を含む役員や従業員への訴えかけを行っています。

この「三断二性」を常に忘れず、私たちはステークホルダーの皆様からの期待に応えながら、今後も自己改革に積極的に取り組み、未来に向かって挑戦し続けてまいります。

本年のCSRレポートが、当社グループの取り組みについて、皆様のご理解を深めていただく一助となることを願っています。

編集方針

●発行履歴と対象期間

2002年から『ユニチカ環境報告書』を毎年1回発行しています。2006年からは内容を拡充し、CSR推進活動やステークホルダーとの関わりについても報告しています。  
本報告書の対象期間は、2013年4月1日から2014年3月31日ですが、一部内容によっては2014年4月1日以降の報告もあります。

●参考にしたガイドライン

環境省の「環境報告ガイドライン(2007年版)」を参考にしました。

●本レポートの対象範囲

原則としてユニチカ株式会社の国内事業所及び海外を含むユニチカグループ会社を対象としています。  
なお、環境報告の対象範囲は次のとおりです。

国内事業所	事業所内グループ会社	国内グループ会社
宇治事業所 岡崎事業所 坂越事業所 垂井事業所 豊橋事業所 常盤事業所 貝塚事業所 中央研究所	(株)アドール 日本エステル(株) ユニチカエヌピークロス(株) (株)ユニチカ環境技術センター ユニチカグラスファイバー(株) ユニチカ設備技術(株) ユニチカトレーディング(株) ユニチカテキスタイル(株) ユニチカロジスティクス(株)	(株)アイテックス (2013年9月解散) 大阪染工(株) ダイアボンド工業(株) テラボウ(株) (株)ユニオン ユニチカスパークライト(株) ユニチカスピニング(株) ユニチカパークシャー(株) ユニチカリアルティ(株)

●発行日と発行形態

本報告書は2014年10月からユニチカ株式会社のWebサイトから閲覧できるようにしています。  
ユニチカでは環境負荷を考慮し、2002年から冊子での発行は行わず、Webサイトでの公開のみとしています。次回発行は2015年10月予定です。

●CSRレポート中の用語の解説

- CSR：Corporate Social Responsibilityの略。企業の社会的責任。
- ステークホルダー：顧客、株主、取引先、社会・地域、社員など企業に利害関係を持つ人や組織。
- コーポレートガバナンス：企業統治。企業を健全に運営するための意思決定の仕組み。
- コンプライアンス：法令や企業倫理の順守。

トピックス **TOPICS** ナショナルスタッフ研修会開催

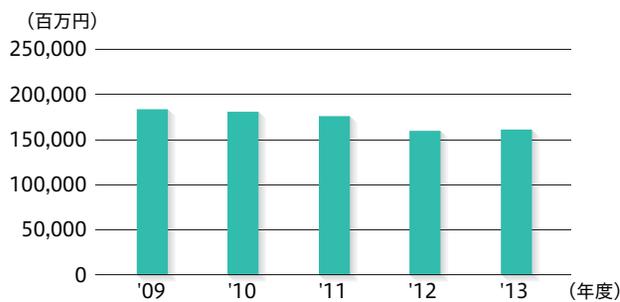
海外関連会社の現地社員を対象としたナショナルスタッフ研修会が、10月に4日間、ユニチカ株の大坂本社、宇治・岡崎事業所にて開催されました。  
海外事業強化のための人材育成の一環として、海外現地法人在籍のスタッフを対象に、グループ事業への理解とモチベーション・帰属意識の向上、国内外のグループ社員相互の人材交流を図ることを目的として例年行われています。  
今回は、エンブレムアジア(インドネシア)、ユニテックス(インドネシア)、タスコ(タイ)、ユニチカプラスチック(タイ)から7名が参加しました。



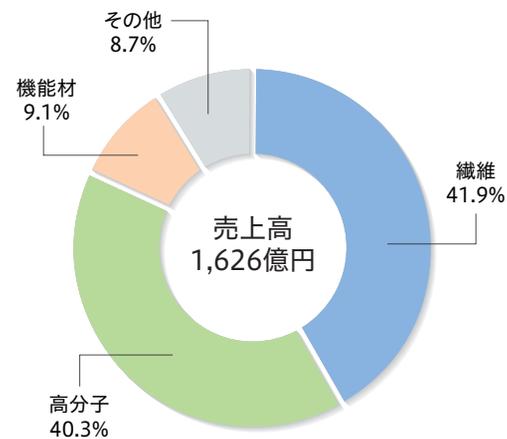
会社概要

- 会社名 ユニチカ株式会社
- 創業 1889(明治22)年6月19日
- 資本金 1億45万円(2014年7月31日現在)
- 大阪本社  
〒541-8566 大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号
- 東京本社  
〒103-8321 東京都中央区日本橋本石町四丁目6番7号  
日本橋日銀通りビル8階
- 中央研究所  
〒611-0021 京都府宇治市宇治小桜23
- 従業員(連結) 4,513名(2014年3月31日現在)
- 売上高(連結) 1,626億円(2013年度)
- 主要製品(連結)  
高分子事業: フィルム、樹脂、不織布、生分解性材料  
機能材事業: ガラス繊維・織物、ガラスビーズ、  
活性炭繊維、金属繊維  
繊維事業: 糸・綿・織編物等、二次製品  
その他: メディカル、機能性食品、  
プラント設計・施工・保全、マンション販売 など  
(2014年3月31日現在)

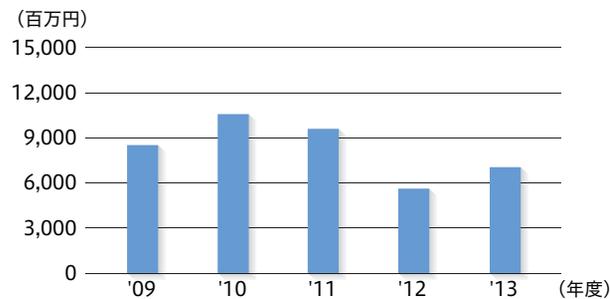
■売上高の推移(連結)



■事業別売上高構成比(2013年度連結)



■営業利益の推移(連結)



■株式会社アイテックスにおける土壌調査および対策について

土壌汚染対策法で義務付けられた土壌調査において、工場跡地の一部区画から土壌溶出量基準値を超えたカドミウムと砒素が検出されましたが、石川県指導のもと土壌汚染対策法に基づく措置は適切に完了いたしました。

トピックス TOPICS 『アローベース』が第64回工業技術賞を受賞

ユニチカ株式会社は界面活性剤を一切、使用することなく低酸価のポリオレフィン樹脂を水性媒体中に安定にナノ分散させた機能性ポリオレフィン樹脂水性分散体『アローベース』を開発しました。『アローベース』は環境に配慮した水系材料でありVOC(揮発性有機溶剤)排出量の低減に役立ちます。さらに、難接着材料の代表格のポリオレフィン材料に対する接着性に優れ、しかも被膜の耐湿熱性、耐薬品性(特に、耐酸、耐アルカリ性)にも優れることから、包装材料、塗料バインダー、電気、電子材料など幅広い応用・展開が期待でき、実用化が進んでいます。このような功績が認められ、第64回工業技術賞を受賞しました。



経営理念

「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」

私たちユニチカグループは、「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」ことを経営の理念とし、長期ビジョン『ビジョン2020』に掲げる、「お客様と共に成長し共に夢を叶えていく企業、グローバルに存在感のある企業、そして全てのステークホルダーに満足を与え社員が誇りを持てる企業」、これらをユニチカグループの「あるべき姿」として目指します。

ユニチカグループスローガン

**UNITIKA**  
We Realize It!

たくさんの人々がいます。人の数だけ夢や願いがあります。  
そのすべてに、ユニチカグループはひとつの想いで応えていこうと考えています。  
ひとつの想い—それは人の暮らしの豊かさに貢献し、この地球環境と共に生きていくこと。  
私たちにはその想いを動かしていく、発想力があります。  
可能性という発想の芽を大きく育てる技術と活力があります。  
あるときは事業領域にかかわる各社が結束し、またあるときは多分野の能力を統合しフル稼働させる。  
私たちは、そうしたさまざまな動きを常に多元的に同時進行で展開させています。  
人々の毎日から生まれる想いを実現する力—We Realize It!—。  
私たちはユニチカグループです。

コーポレート・ガバナンス

●基本方針

当社グループは、「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」という経営理念により、社会的存在感のある企業を目指し、事業活動を行っています。また、ガバナンス戦略として、迅速な意思決定はもとより、コンプライアンス、リスクマネジメントの強化、適時適確な情報開示などによるステークホルダー重視の経営に取り組むものとしています。当社グループは、これらを追求する経営体制の構築に継続的に取り組むことにより、グローバル化する環境の中で企業価値の最大化を図り、成長し続けることができるものと考えています。今後も、コーポレート・ガバナンスを念頭に置いた企業経営を推進していきます。

●実施状況

ユニチカでは、「経営意思決定・経営監督(ガバナンス)機能」と「業務執行(マネジメント)機能」を明確化する経営システムとして執行役員制度を導入する一方、取締役と執行役員の相互連携強化を図り、経営の機動性と実効性を高めるため、一部を除き、取締役が執行役員を兼務する体制としています。  
また、「取締役会」を経営に関する意思決定と監督に特化する「ガバナンス機能」の機関として位置付けているほか、経営全般の基本方針・課題等について取締役の討議を深める一方で、経営課題の早期把握、施策立案に係る方針の決定の効率化・迅速化、施策のタイムリーな執行を図るため、「経営推進会議」を設置しています。  
内部統制システムについては、社長を委員長とするコンプライアンス委員会、CSR室を中心とした社内情報収集・監査体制、社内外への内部通報窓口の設置など、適時に対応できる体制をとっています。  
また、『ユニチカ行動憲章』『ユニチカ行動基準』をグループの全役員・従業員に配布し、入社時や昇格時研修で教育するなど、コンプライアンスの啓蒙にも努めています。

内部統制

2007年から、内部統制推進室を設置し、財務報告に係る内部統制の構築を進めてきました。  
2008年には内部統制に関連した部署を統合してCSR室を設置し、内部統制の推進に取り組んでいます。

●基本方針

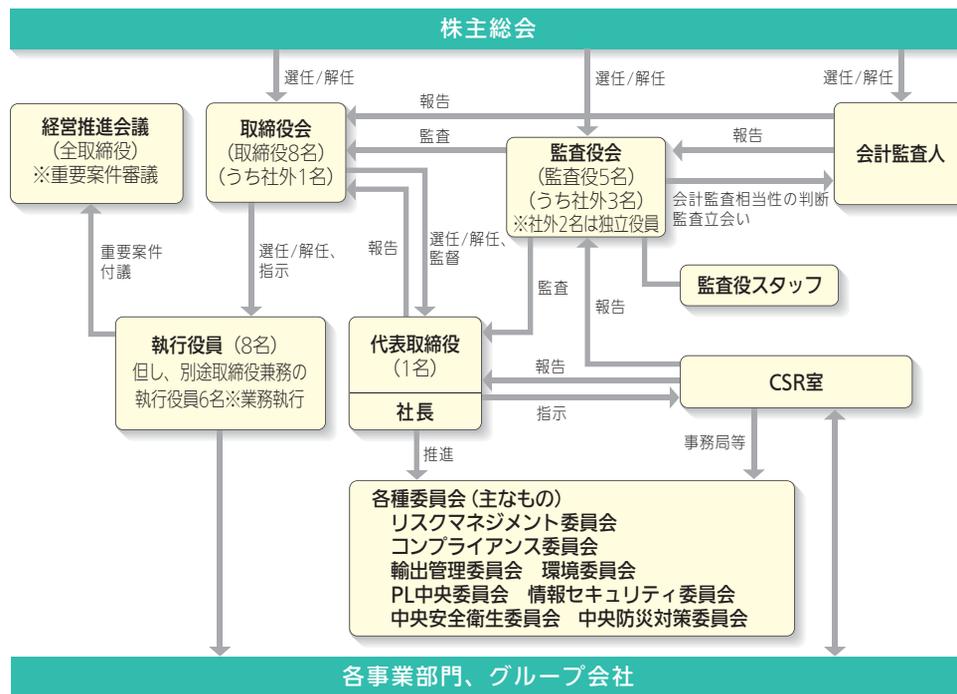
「ユニチカ内部統制基本方針」は以下の9項目です。

- ユニチカ内部統制基本方針（大項目） ■
1. 取締役及び使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制
  2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存・管理に関する事項
  3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
  4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
  5. 企業集団における業務の適正を確保するための体制
  6. 財務報告の信頼性を確保するための体制
  7. 監査役がその補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項
  8. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制
  9. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

●体制

コーポレート・ガバナンス、公正な企業活動を推進するための体制を下図のように定めています。基本にあるのは、上記の「ユニチカ内部統制基本方針」です。この体制により、コンプライアンス、情報の保存・管理、リスク管理や安全保障輸出管理、取締役の職務執行効率化、業務の適正の確保といった内部統制を厳正に行っています。

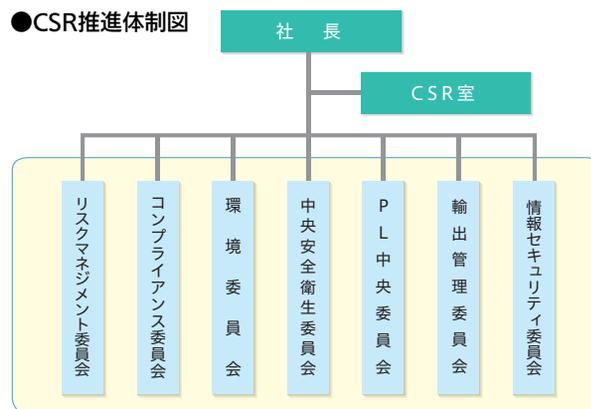
■体制図



CSR推進体制

環境への配慮や安全対策をはじめ、コンプライアンスやリスクマネジメントなどCSR活動全体を推進し統括する組織としてCSR室を設置しています。CSR室を中心に各種委員会と事業本部からなる管理体制を確立し、CSR活動を推進しています。重点活動としては(1)コンプライアンス推進、(2)環境管理・安全衛生管理、(3)製品安全性の確保、(4)安全保障輸出管理、(5)情報セキュリティ管理などがあります。

●CSR推進体制図



環境管理・安全衛生管理

ユニチカでは、環境管理および安全衛生管理を主管する組織として環境委員会と中央安全衛生委員会を設置しています。環境委員会においては主に環境配慮型経営の基本計画ならびに進捗状況の検証、委員会事務局が実施する各事業所・グループ会社の環境監査結果の報告およびその他環境に係る重要事項の審議を行います。また、中央安全衛生委員会は労災をはじめとする各種の事故災害を防止するための施策やその他安全衛生上の重要事項に係る審議を行っています。この両委員会は、各事業所・グループ会社が組織する環境安全グループを統括する上部組織でもあり、各組織がそれぞれ固有の事情を反映した施策を立案実施する際に、グループとしての方針を示し取りまとめる重要な役割をも担っています。

安全保障輸出管理

ユニチカでは、安全保障貿易管理が国際的にますます重視されている背景を再認識し、『安全保障輸出管理規程』を一新するとともに、輸出管理体制をよりいっそう強化しました。各事業部には輸出管理責任者をはじめとする4名の責任者を配し、日々の輸出業務について二重にチェックしています。もしも輸出案件に懸念がみられる場合には、取締役である輸出管理委員長が最終的に承認決定するシステムとなっています。また、社内制度や法令改正などの最新情報をいつでも確認できるよう専用イントラサイトを開設し、情報の共有化をすばやく行えるよう整備しています。一方、貿易管理に関する正しい知識を多くの従業員に身につけてもらうため、昇格者を対象とした説明会や定期的な社内研修を行い、今後もコンプライアンス教育の一環として輸出管理教育を行っていく予定です。

情報セキュリティ管理

情報資産の機密性保持、不正利用の防止を目的として、「情報セキュリティ基本方針」を定めています。「情報セキュリティ宣言」を掲げ、情報セキュリティ委員会を中心とした管理・運用体制を確立。お客様の個人情報や事業活動における情報の保護とその有効利用を図っています。

■ ユニチカ情報セキュリティ宣言(前文略) ■

- 1.情報セキュリティポリシーを基に情報セキュリティ対策を実施します。
- 2.情報セキュリティ管理体制を構築し組織的に取り組みます。
- 3.役員ならびに全従業員に対し情報セキュリティポリシーの啓蒙と教育を実施し、情報セキュリティ事故の防止に努めます。
- 4.継続的に情報セキュリティの改善に努めます。
- 5.個人情報保護法をはじめとして関連するすべての法令その他の規範を遵守します。

\*情報セキュリティポリシーとは、「情報セキュリティ宣言」「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ対策標準」「情報セキュリティ実施手順」により策定・管理される文書。

コンプライアンス推進のために

ユニチカでは、1998年に『ユニチカ行動憲章』を制定。さらに、コンプライアンスを徹底しながら人々の暮らしと環境に貢献する企業として、ユニチカグループの従業員が活動できるよう、具体的な行動などの基準を明記した『ユニチカ行動基準』の冊子を、すべての役員と従業員に配布しています。2011年度には、国際的なルールに則り、強制労働・児童労働・人身売買といった非人道的な不当労働行為を許さないことを目指す、と追記しました。毎年、新入社員をはじめ全ての昇格者研修時にコンプライアンス研修を実施することで、従業員へのコンプライアンス意識の周知と定着に努めています。



コンプライアンス研修風景

● ユニチカ行動憲章

『ユニチカ行動憲章』は、ユニチカが社会的使命を果たすための基本的な方針です。ユニチカグループの全役員、全従業員に適用しています。

■ ユニチカは、法律、国際ルールを順守するとともに、社会的良識を持って行動します。■

1. 社会に有用な財・サービスを環境・安全に十分配慮して開発・提供します。
2. 公正で自由な競争を行い、また政治・行政とは健全な関係を保ちます。
3. 広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報を適時・公正に開示します。
4. 安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、従業員の人格・個性を尊重します。
5. 海外の文化・慣習を尊重し、地域の発展に貢献します。
6. 秩序・安全に脅威を与える反社会的勢力には毅然と対応します。
7. 「良き企業市民」として基本的人権を尊重し、社会貢献のための活動を行います。

● 内部通報窓口の設置

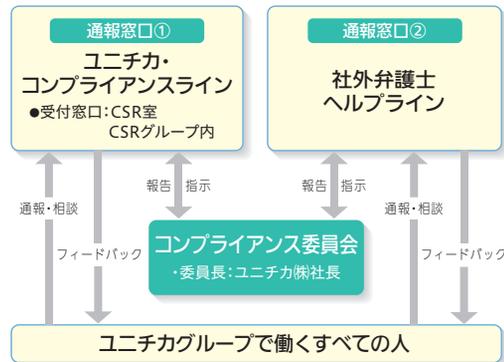
「公益通報(内部通報)取扱規程」を施行し、従業員が不正・違法行為に気づいたらすぐに通報できるよう社内と社外に2つの通報窓口を設置しています。また社長を委員長としたコンプライアンス委員会を中心に、グループ全体のコンプライアンスの徹底を図っています。

規程には、通報者のプライバシー保護や通報を理由とした不利益な取り扱いの禁止などを明記しています。



社外弁護士ヘルプラインと委員会との打合せ

■ ユニチカの内部通報窓口



● ハラスメント相談窓口の設置

職場におけるセクシャルハラスメントやパワーハラスメントなどに関する相談窓口を各事業所やグループ会社に設置し、早期発見と早期解決を目指しています。



ハラスメント研修風景

トピックス TOPICS 『こんにやくセラミド』が「農林水産技術会議会長賞 民間部門」を受賞

美容食品・化粧品原料『こんにやくセラミド』の開発が、平成25年度民間部門農林水産研究開発功績者表彰において「農林水産技術会議会長賞 民間部門」を受賞しました。

従来の植物由来の原料であった小麦や米ぬかに比べ、こんにやく芋が7~15倍高いセラミドを含有していることを発見するとともに、こんにやく芋からセラミドを抽出・生成する技術を確認したことが評価されました。



## ユニチカ購買方針

### ● 購買方針

ユニチカの購買部門は、人々と社会に認められる透明性のある公正な調達を進めます。さらに「CSR活動」にも重点を置き、企業として責任ある調達活動を進めていきます。

#### 1. 法令の順守

購買活動の実行にあたり、法令・社会規範を順守し、透明性のある公正な調達活動に取り組み、良き企業市民を目指します。

#### 2. 地球環境との調和

製品・サービスを調達するにあたり、環境への配慮と安全性確保を重視し、地球環境への負荷がより少ない商品・原材料の購買に努めます。

#### 3. 人権尊重と労働環境の向上

購買活動において、人権を尊重し、あらゆる差別を排除して職務を遂行します。また社内で働くすべての人々に対して、安全・衛生の確保、労働環境の向上に取り組みます。

#### 4. お取引先様について（CSRの観点から）

より良いパートナーシップの構築を目指し、下記を要望いたします。

- ①法令・社会規範を順守されていること
- ②人権を尊重し、労働環境の改善・向上の取り組みを重視されていること
- ③環境の保全と、安全の確保の為の活動に取り組んでいること
- ④適正な品質・価格及び確実な納期、また製品・サービスの維持向上に努めていること

## トピックス TOPICS エコプロダクツ2013に出展

ユニチカグループは、12月12日（木）～14日（土）に東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2013」に出展しました。「for the EARTH」-明日の地球のために-をテーマに“バイオマス素材”“リサイクル素材”“環境配慮型素材”“省エネ素材”“資源有効活用”の5つのカテゴリー別に製品を展示し、環境に対する取り組みを紹介しました。また、会場には「金沢美術工芸大学×テラマック」のプロジェクトで学生が作製した作品も展示し、来場者の注目を集めました。



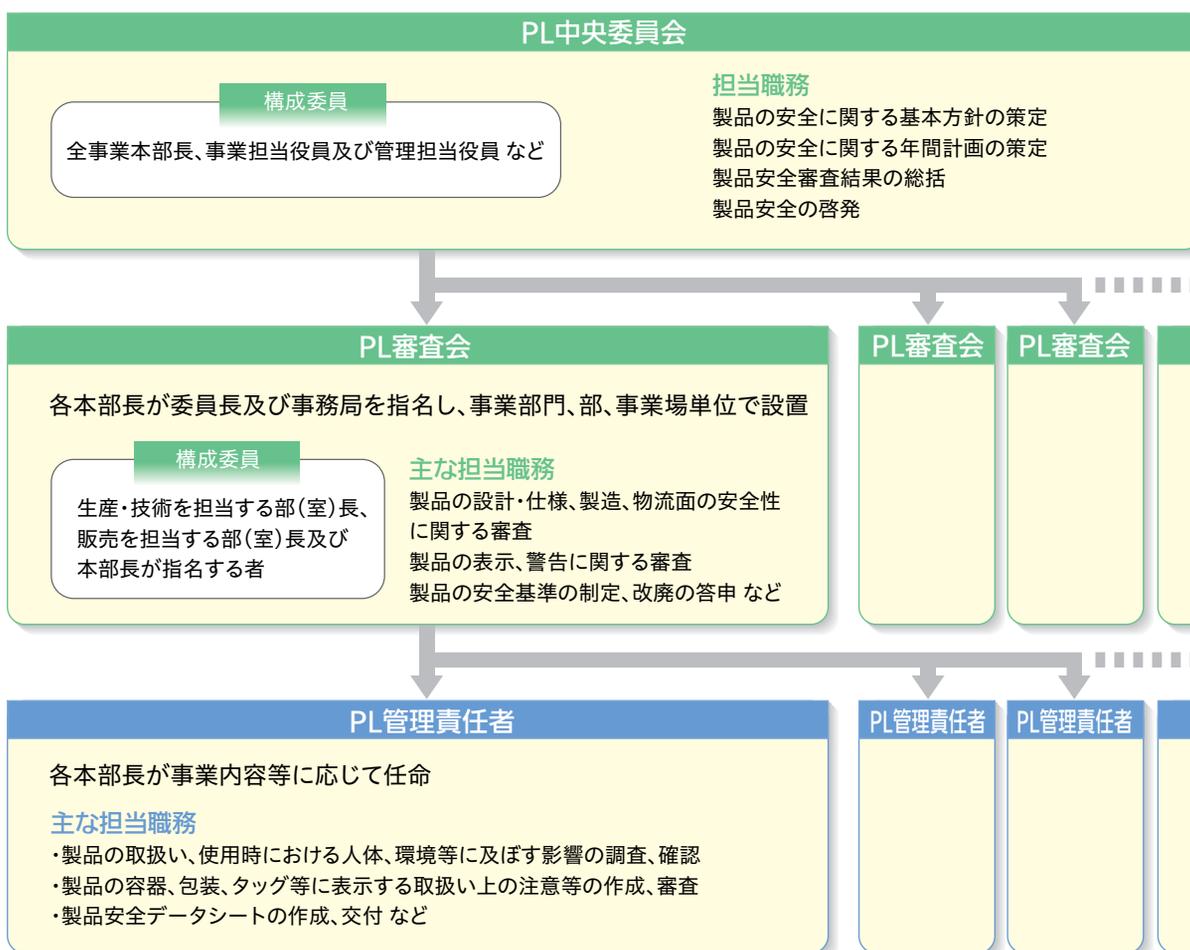
お客様とのかかわり

私たちユニチカグループは、PL・品質保証を通して製品の安全性や品質の向上を図り、常にお客さまのご満足を第一に製品づくりに努めています。

安全な製品を提供するために

ユニチカは、お客様に安全な製品を提供するために「製品安全管理規程」を制定しています。基本方針から責任の所在、推進体制、マニュアルの運用や適用の細則まで詳細に定めており、この規程に則って安全な製品の製造・販売に努めています。

なお、製品の安全を図るために設置された「PL中央委員会」を中心とする推進体制は下図のとおりです。



●2013年度製品安全に関する結果

PL(製造物責任)に関する事故はありませんでした。

※事故につながるおそれのあるようなクレームについても、PL中央委員会で情報を共有化し、日々、再発防止の対策をすすめるなど改善活動を行っています。

品質保証活動

お客様にご満足いただける商品を提供するため、ユニチカグループでは品質マネジメントシステムの認証取得をすすめています。ISO9001を基本とした総合的な品質マネジメントシステムを確立し、継続的な改善を図ることによって品質保証活動を展開しています。



### 株主と投資家の皆様とのかかわり

私たちユニチカグループは、ステークホルダー重視の経営の観点から、株主や投資家の皆様に対して多様な機会を通じて情報の適時開示に努めています。

IR広報グループはこれらを円滑に行えるよう活動を展開し、株主や投資家の皆様との対話の充実を図っています。

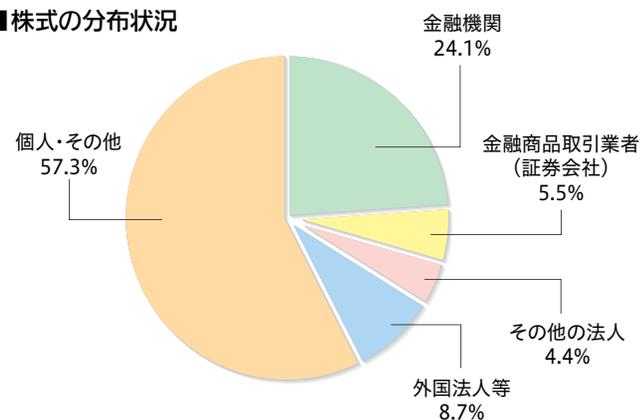
### IR活動の状況

- 定時株主総会** 毎年6月下旬に開催しています。最新の業況のご説明、株主の皆様との対話を通じて、当社の経営状況と方針などについての理解を深めていただけるよう努めています。
- 決算発表および説明会** 年2回、第2四半期決算と通期決算発表日には新聞記者の皆様を対象にした決算報告を、また同発表日の約1週間後に、機関投資家およびアナリストの皆様を対象とした決算説明会を、それぞれ実施しています。
- 機関投資家訪問** 機関投資家、アナリストの皆様を訪問し、個別の取材対応を行っています。
- 各種発刊物**
  - ・決算短信(年4回 四半期ごと 5月、8月、11月、2月発行)
  - ・株主通信(年2回 第2四半期、通期決算後)
  - ・会社案内
- Webサイトでの情報開示** 当社Webサイト内「株主・投資家情報」において、IR情報や製品・サービスに関するプレスリリースなどの情報を開示しています。また決算短信やIR説明会資料、有価証券報告書などのバックナンバーも揃えています。

### 株式の状況 (2014年3月31日現在)

- 発行済株式の総数 577,523,433株
- 株主数 58,133名
- 単元株主数 50,001名

#### ■株式の分布状況



### トピックス TOPICS フィッシングショー OSAKA2014

ユニチカ(株)は、2月7日(金)～9日(日)にインテックス大阪で開催された「フィッシングショー OSAKA2014」に出展しました。

会場はたくさんの来場者でにぎわい、各プロスタッフによるユニチカワンダーセミナー終了後には熱心な質問をされる方もたくさんいらっしゃりなどとても盛り上がりました。また、2014ユニチカマスコットガール松田莉奈(まつだ りな)も登場し、昨年のエギング、トラウトの釣行についての報告や、来場者との記念撮影・サイン会でお客様との交流を深めることができました。



地域社会や地球環境とのかかわり

私たちユニチカグループは、地域と連携した美化運動や防災活動から森林保全や発展途上国における教育支援まで、様々な情報発信を通じて、地球環境の保護や生物多様性の保全、健全な子どもたちの育成などを目指して活動しています。

地域社会に対する取り組み

● エコ京都

「エコ京都21」は京都府が、地球環境保全や循環型地域社会づくりに率先して取り組んでいる事業所などを認定・登録する制度です。この活動に宇治事業所は参加し、創意あふれる環境配慮活動を推進している事業所・団体を対象とする、エコスタイル部門の認定・登録を2004年から受けています。



● 地域の美化運動の実施

各事業所では、社会貢献活動として事業所周辺の環境美化運動を積極的に実施しています。岡崎事業所では、毎月第2木曜日を事業所周辺清掃の日とし、毎月約80名の参加にて、周辺美化運動を行っています。また、3月29日(土)には約150名が参加し、事業所周辺地域の清掃を行いました。宇治事業所では、クリーン宇治運動という名称で事業所周辺の清掃を年3回実施しました。2013年度は、7月29日(月)、9月10日(火)、2月28日(金)に、延べ1,026名が参加し実施しました。坂越事業所では、定期的な美化運動のほか、赤穂クリーンアップ作戦として2014年5月30日(金)事業所周辺地域の清掃活動および、商工会議所会員による中心市街地クリーンアップ作戦へ参加しました。垂井事業所でも、6月5日(水)に25名が参加し工場近辺相川水辺公園清掃活動を行うなど、各事業所で活動を実施しています。



岡崎事業所の周辺地域の清掃活動



宇治事業所のクリーン宇治活動



坂越事業所の美化運動  
「赤穂クリーンアップ作戦」



垂井事業所の相川水辺公園清掃活動

トピックス

TOPICS

ユニチカテキスタイル(株)が総社市消火技術訓練大会で優勝!

ユニチカテキスタイル(株)は総社市防火協会・総社市消防本部主催で毎年開催されている消火技術訓練大会へ参加しています。男女別に消火器による消火技術を競います。2013年度、ユニチカテキスタイル(株)は男子の部に参加し、優勝しました。



## 社会性報告

### ●災害時における地域との連携

岡崎事業所では、災害時に地域住民の避難先として工場を開放したり、地震などの災害時に備蓄している化学消火薬剤やオイルマットなどの消防資機材を提供することを自治体や消防本部と取り決めていきます。

坂越事業所では、農業用水路の氾濫を想定した水防訓練を近隣自治体と毎年実施し、台風等による豪雨時には協力して実際に水防活動を行っています。

宇治事業所にて、2014年6月22日(日)に福島東地区連合町内会による水害時の避難訓練が実施されました。

昨年9月の台風18号による宇治川増水に伴い、宇治市より避難指示が発令され、この時同町内会約300名が事前に取り決めていた、緊急避難所のユニチカ中央研究所に自主避難されましたが、当時は施設利用に関しての取り決めは無く、屋外広場での避難となり高齢者への対応が十分ではありませんでした。

このことから、昨年12月に水害時の一時避難場所として事業所内の体育館(青雲館)が使用できる協定を交わしました。同町内会から、実際に体育館を使用するの避難訓練を行いたいとの申し出があり、今回避難住民約350名と宇治警察署・消防署・消防団・宇治市危機管理課などを含め総勢約400名での訓練が行われました。



宇治事業所内での地域住民による防災訓練

## 環境・生物多様性保全に対する取り組み

### ●生物多様性宣言への参加

ユニチカは社団法人 日本経済団体連合会が2009年に発表した『生物多様性宣言』の趣旨に賛同し、推進パートナーズに参加しています。この宣言は、自然循環と事業活動の調和や自然循環型経営の推進など7原則から成り、当社は生物多様性に配慮した事業活動を推進していきます。

### ●ユニチカの森プロジェクト

労働組合であるユニチカユニオンは、1992年にボランティア基金を設立し、国内外で様々な支援活動を展開しています。また、2003年には結成30周年記念事業として、国内での社会貢献や環境保護を目的とした「緑のプラン」をスタートしました。

緑のプランは、和歌山県日高川町の『ユニチカの森』と名づけた山林2haにクヌギ、コナラ、ヒノキを植林し、年数回現地にて従業員による下草刈りや枝打ちなどの森の整備をおこなっています。この活動は和歌山県より「森林による二酸化炭素の吸収等環境保全活動」に認証され、100年間で約800tの二酸化炭素の吸収が見込まれています。

2013年9月には、従業員28名が参加して木の生育を良くするため、周辺の下草刈りをおこないました。これまでの延べ参加人数は330名を超えています。



### 防災活動への取り組み

「従業員の命を守る」という基本的な使命と、「事業を継続する」というステークホルダーへの責任を果たすためには、東日本大震災のような巨大災害に対する「備え」が必要です。私たちユニチカグループでは、耐震改修促進法に基づいて各事業所の建築物や設備の調査を進める傍ら、緊急時のエネルギー自給体制の確立を目指し、事業所のエネルギー転換と並行して自家発電設備の整備などを進めています。

#### ●防災訓練の実施

ユニチカグループでは、生産事故や周辺被害事故を起こさない体制づくりに加えて、事故や自然災害に備えた訓練活動にも積極的に取り組んでいます。

生産施設の安全管理を徹底する社内基準として『新設備等の安全衛生および環境に関する事前評価指針』を制定しています。設備の新設・改造などを行う場合は、この基準に照らし、設計時と完成検査時の計2度にわたり厳正な審査を行い、災害防止に努めています。

岡崎事業所では、2013年11月18日に事業所一斉防災訓練として、地震を想定した地震総合訓練と火災総合訓練の2種類について実施しました。

地震訓練では、漏洩物流出、けが人搬送、閉じ込め、重要物搬出の処置訓練を、火災訓練では、日本エステル製造第2課と事業所消防車隊の共同による消火訓練を行いました。



初期消火防災訓練 (宇治事業所)



岡崎事業所防災訓練



そのほかの事業所でも、春や秋の火災予防運動実施時期にあわせて、訓練を実施しています。

宇治事業所では、各部署単位で通報・連絡・避難・救助・初期消火等の訓練を実施しています。2013年度の延べ参加人数は938人です。(株)ユニオンでは強地震による火災発生を想定し対策本部設置から消火までの訓練、LNG緊急遮断訓練および救急救命講習を実施しました。

垂井事業所では、消防自動車による放水訓練、消火栓からの放水訓練、また、坂越事業所では、各部署単位で消火訓練等を行いました。ユニチカテキスタイル(株)では4月4日(金)に火災発生時の避難誘導および消防班の放水訓練、消火器による消火訓練を実施しました。また、各職場における工場避難訓練を5月末に部署ごとで実施しました。



けが人の搬送訓練 (株ユニオン)



ガソリンポンプ車指導 (垂井事業所)



消防班の放水訓練 (常盤事業所)



救急救命入門講習 (株ユニオン)



消防自動車操法訓練 (放水) (垂井事業所)



消火器による消火訓練 (常盤事業所)

#### ●大規模災害への備え

ユニチカでは、大規模災害の発生によって電車などの公共交通機関が麻痺した場合、従業員が途中で帰宅困難者になったり、警察や消防の救助活動の妨げになったりすることを防ぐため、事業所内に一昼夜留まるよう「帰宅基準」を定めています。このため、各事業所では災害対策用資材や器具のほかに飲料水や保存用食品の備蓄が進んでいます。災害時には、近隣住民の方々からの応援要請や自治体からの協力要請に応えることができるよう体制を整えています。

### 従業員とのかかわり

私たちユニチカグループでは、従業員の自己実現を支援する人事制度を運用しています。また雇用や職務の機会均等を図るとともに、安全・衛生に配慮した快適で働きやすい職場環境づくりに努めています。

### 人事制度

ユニチカの人事制度では、従業員がキャリア開発と能力向上を図り、モチベーションやマインドを高くもって、自らの成長をめざして取り組めるよう、種々の育成プログラムを展開しています。また、それを体系的、継続的に推進していくことによって、組織としての成長を図り、企業競争力を高めていくことを目指しています。

#### ●人事ローテーション制度

永続的な組織運営に必要な人材を計画的に育成できるよう、それぞれの職層に応じて「人事ローテーション制度」を展開し、個々の従業員のキャリア開発はもとより、組織間シナジーを生み出し、ビジネスチャンスや業績の向上に繋げられるよう運営しています。その中では、会社ニーズに加えて、従業員の自己申告による配置希望なども踏まえ、従業員の期待役割と能力開発目標をできる限り明確にし、より効果的な運用が図れるよう取り組んでいます。

#### ●評価制度

従業員の期待役割をより明確にするとともに、その役割に応じて成果を上げた者がより公正に評価されるよう、評価制度を運用しています。具体的には、1年間のコンピテンシー・能力・役割の向上、成果達成、業務遂行プロセスの状況に基づき評価する人事考課や、年2回の目標管理制度に基づく業績評価などを実施し、昇給・昇格、賞与に反映させるとともに、評価の結果について上司との面談を通じて確実にフィードバックを図るなど、個々の従業員の今後の能力開発、育成に繋がる評価制度の運営に努めています。

### 人材育成の取り組み

従業員全体の能力の一層の底上げが、組織力の基盤をより強固にするとの考えから、今般、教育研修体系を整備しました。人材育成においては、従業員のキャリアパスを踏まえた「OJT」がその幹であると位置付け、若手社員のフォローアップと指導者に対する教育・支援をより効果的に行う仕組みとしました。「OFF-JT」では、階層別の教育機会を充実させ、特にマネジメント力の向上を図るプログラムをこれまで以上に取り入れるとともに、営業系・技術開発系・製造系の各職種機能を強化するための「機能別教育」メニューを今後増やしていきます。また、海外事業推進のためのグローバル人材の育成のプログラムを計画的かつ継続的に実施し、グローバルマインドの醸成とスキルアップを図っていきます。

#### ○教育・研修体系

- ・入社3カ年能力育成期間とフォロー研修、OJT強化研修
- ・階層別教育(上級管理職、新任管理職、主任、その他昇格者など)
- ・選抜型教育(中堅リーダー、若手リーダーなど)
- ・機能別教育(営業系、技術開発系、製造系)
- ・技術系留学制度
- ・自己啓発支援(資格取得支援、通信教育など)

#### ○グローバル人材の育成プログラム(主なもの)

- ・人事ローテーションによる海外関連業務や海外拠点への配置
- ・海外トレーニー制度
- ・語学レッスンの受講支援
- ・海外関連業務研修(グローバル講座)
- ・TOEIC受験推奨 等

### メンタルヘルスへの取り組み

厚生労働省の「労働者の心の健康保持増進のための指針」に基づいて積極的に取り組んでいます。管理監督者向けに、メンタルヘルス研修を行い、役割認識や管理監督者自身および従業員の「心の健康づくり」に取り組んでいます。メンタルヘルス疾患による長期休職者への「復職支援ガイドライン」を導入し、従業員一人ひとりの予防から復職までをサポートし、健康管理・健康増進を図っています。

## 社会性報告

### 均等な機会の提供

#### ●女性の活躍

ユニチカでは、採用や昇進・昇格などで差をつけず、女性の積極的活用に取り組んでいます。

#### ●再雇用制度

ユニチカでは、60歳を超えても同じ仕事を続けることができるよう、「エルダー社員制度」を設け、意欲がある人を積極的に再雇用しています。また、「年金と雇用の接続」を念頭に置き、制度の整備、充実を図っています。

#### ●仕事と育児の両立支援制度

2014年7月1日現在

	妊 娠	出 産	1歳6カ月または子が1歳を超えた年度末(最大)	小3終期	
退職・休暇	生理休暇	つわり休暇	産前産後休暇	育児休暇	子ども看護休暇(10日/年)
勤務時間	通勤緩和 (1)1日1時間以内での時短 (2)1時間以内の時差出勤 ※フレックス制対象者除く 時間内通院			育児のための時短 (1)子が3才までは1日2時間以内の時短で6時間 (2)1日1時間以内での時短 (3)1時間以内の時差出勤 ※フレックス制対象者除く (4)所定外労働時間の制限	
その他	フレックスタイム制			フレックスタイム制	

#### ●ワーク・ライフ・バランス

ユニチカでは、職業生活と家庭生活の両立や高齢化問題に対応するため、育児休暇や介護休暇のできる制度を整備しており、具体的には法定を上回る育児休暇、介護休暇の期間や子ども看護休暇を導入しています。さらに「次世代育成支援対策推進法」に基づき、男性の育児参加促進にも取り組みを進めており、女性社員だけでなく、男性社員も育児休暇を取得しています。

	育児休暇者数	介護休暇者数
2009年度	16(0)	1
2010年度	17(0)	1
2011年度	19(2)	1
2012年度	14(4)	1
2013年度	26(4)	0

※( )内の数値は男性の育児休暇者数

#### ●障がい者雇用

ユニチカでは法定雇用率(2.0%)を達成するだけでなく、地域のハローワーク、福祉施設と連携し、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

ユニチカ障がい者雇用率
2.63%(2014年3月末時点)

### 人権啓発推進への取り組み

#### ●人権啓発活動

ユニチカでは、従業員に配布しているユニチカ行動憲章に人権尊重について明記するとともに、人権啓発推進組織を整備する等、人権啓発にグループを挙げて取り組んでいます。

さらに大阪同和・人権問題企業連絡会会員として、人権啓発情報の収集など幅広く人権問題に取り組んでいます。また男女雇用機会均等法施行に伴い、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントについても、各事業場に相談窓口を設置し、従業員の意識・認識を高めています。

#### ●不当労働行為の排除

ユニチカでは、グループ会社ならびに海外法人において、「国際人権規約」や「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」などの国際条約に反する強制労働および児童労働を一切行っていないことを言明します。またこれらの不当労働行為並びにこれらを目的とした人身売買などを許さないことは『ユニチカ行動基準』にも明記しています。

#### ●公正な採用活動

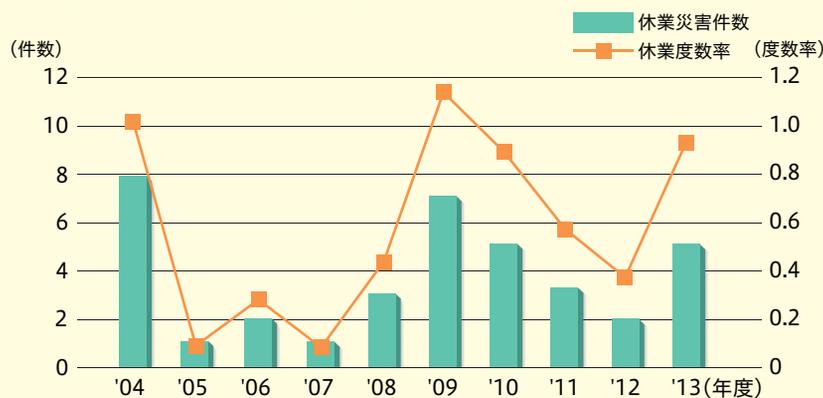
厚生労働省「公正な採用選考について」の趣旨を踏まえ、独自の『ユニチカ新卒採用面接マニュアル』を作成しています。採用選考に当たる面接官や採用関係者に会議・研修の場で配布・周知して徹底を図り、公正な採用活動を推進しています。

安全衛生に対する取り組み

ユニチカグループでは、「休業災害ゼロ」を目指して、ユニチカ中央安全衛生委員会を中心に、各事業所・グループ各社が独自の取り組みを含めた安全衛生管理活動を実践しています。中央安全衛生委員会では、3年ごとに新たな重点方針を定め、活動を推進するための安全衛生大綱を策定します。現在は2014年よりはじまった第16次の大綱に沿った活動を展開中です。また、各事業所、グループ各社においては、この大綱に基づき、毎年度初めに年間の活動計画を策定し、積極的な活動を推進しています。これら活動の集大成として、年1回関係者が一堂に会して「ユニチカ安全衛生大会」を開催しており、活動報告や目覚ましい実績に対する顕彰、講演等による啓発を行っています。



■ 過去10年間の労働安全衛生実績



石綿関連の現状と対応

ユニチカグループでは、2005年からグループ横断的な「石綿関連対策会議」を設置し、石綿に係る対策を推進しています。

飛散性石綿を含む部材が露出している箇所については、既に除去、封じ込め、あるいは囲い込み等の暴露対策処置を実施しています。封じ込めや囲い込みを行った飛散性石綿や非飛散性石綿は、定期修理の機会等も活用しながら、適切な処理を実施しています。

また、元作業者の健康状況確認のため、過去に石綿を取り扱う作業に従事していた従業員および退職者の中で、希望者には石綿健康診断を実施しました。2014年3月現在で把握している従業員および退職者の健康被害は、労働災害認定者6名(うち故人5名)、石綿による健康被害救済法認定者3名(うち故人3名)です。事業所やグループ各社周辺の住民の方からの健康被害に関する相談はありません。

労働災害認定者……………6名(5名)  
石綿による健康被害救済法認定者……………3名(3名)  
( )内は故人

トピックス TOPICS ユニチカエギングフェスタ2013開催!

10月6日(日)、和歌山・みなべ町で「ユニチカエギングフェスタ2013」が開催されました。今回は、154名の方に参加いただき、前日からの強風の影響で波が高い中、皆さん優勝を目指して、大きなアオリイカを釣り上げようと熱中されていました。結果は大会史上初の女性優勝者が誕生し、男女を問わないエギングファンの広がりを実感する大会となりました。



環境基本方針

私たちユニチカグループでは、1993年を環境元年とし、宣誓、基本理念、行動指針からなる「ユニチカ地球環境憲章」を制定しました。以後この憲章にのっとり、環境に配慮した企業経営を行うとともに、様々な環境活動に取り組んでいます。

●ユニチカ地球環境憲章

私たち人類の活動範囲が広がり、活発となるに伴って、空気、水、土などの自然環境が地球的規模で急激に変化し、地球という限られた生態系の中で、私たちと共に生きている動植物のみならず、私たちの存亡さえ危惧される事態に立ち至っている。ユニチカは、一世紀余りにわたる事業活動を通じて社会に貢献してきたが、このような地球環境の厳しい現状を深く認識し、地球環境の保護、改善に一層の配慮をし、適切な方策を講じることが企業活動の根幹であることを宣明する。

●基本理念

暮らしと技術を結び、人と自然との共生に貢献する企業活動を行う。

●行動指針

1	地球環境を常に配慮する	企業活動を行うに当たっては、地球環境に与える影響を常に配慮する。特に製品の製造に当たっては、地球環境に悪影響を与えないように厳格な管理をする。
2	技術開発で貢献する	地球環境の保護、改善に貢献する技術の研究開発を積極的に推進する。
3	資源・エネルギーを効率的に利用する	資源・エネルギーの効率的な利用を促進するとともに、限られた資源のリサイクルに努める。
4	広報、啓発活動を推進する	地球環境の保護、改善に関する情報について積極的な広報活動を行うとともに広く啓発活動を推進する。
5	ユニチカグループの総合力を発揮する	ユニチカグループは、この憲章にのっとり総合力を発揮して、地球環境の保護、改善の実現に努める。



環境保全活動

●環境保全活動の歩み

私たちユニチカグループは、40年以上にわたって連続と進化し、さらに未来へと続いていく環境経営を進めます。

ユニチカは、我が国が公害問題で揺れていた1973年に「環境保全規程」を定め、規制値や基準値が守られればよしとする、他律的な生産活動とは一線を画しました。1991年には全社組織として環境保全委員会を新たに設け、1993年の『ユニチカ地球環境憲章』制定、年1回の環境監査開始と、現在まで続く環境配慮型経営の基本路線を確立。1998年には、ユニチカグループとして社会的使命を果たすための基本的な行動方針を定めた『ユニチカ行動憲章』を制定し、その第一条において環境・安全への配慮責任を明記しています。

この行動憲章を受け、日頃の事業活動において守るべき具体的な組織・従業員の行動基準を定めたのが、2001年4月に制定・施行した『ユニチカ行動基準』です。環境・安全から、コンプライアンスや、社会、ステークホルダーとの共生意識へと広がる、企業の社会的責任(CSR)の考え方に立った企業活動へと明確な一歩を印しました。

1973. 09	環境保全規程を制定・施行
1991. 10	環境保全規程を改正、環境保全委員会設置
1993. 04	地球環境憲章を制定・施行
1993. 05	環境保全規程を改正し、環境規程として制定・施行／環境委員会を設置し、毎年開催
1994. 05	環境監査を開始(年1回) (事業所自主監査と、本社スタッフによる社内監査)
1996. 07	環境中期計画第1次(1997～1999年度)目標策定
1996. 09	社内啓発誌“かんきょう”を発行開始
1997. 10	主要事業所でISO14001の認証取得に向けて活動開始
1998. 01	ユニチカ行動憲章制定・施行
1999. 01	ユニチカケミカル(株)がISO14001取得(グループ第1号)
2000. 10	環境中期計画第2次(2000～2002年度)目標策定
2001. 04	ユニチカ行動基準作成
2002. 10	ユニチカ環境報告書発行
2002. 10	環境中期計画第3次(2003～2005年度)目標策定
2005. 10	環境中期計画第4次(2006～2008年度)目標策定
2008. 10	環境中期計画第5次(2009～2011年度)目標策定
2011. 10	環境中期計画第6次(2012～2014年度)目標策定

●ISO14001の認証取得状況

ユニチカグループでは、環境に配慮した企業活動の国際的な基準となっている、ISO14001の認証取得にも積極的に取り組んでいます。1999年以来、5事業所(宇治、岡崎、坂越、垂井、常盤)と主要11グループ会社が認証を取得しました。関係会社の認証取得を支援する一方で、各社の環境監査を行っています。

1999. 04	(株)アドール
1999. 11	ユニチカ坂越事業所
2001. 01	ユニチカテキスタイル(株)常盤工場
2001. 03	ユニチカ宇治工場
2001. 03	ユニチカ宇治プラスチック工場
2001. 03	ユニチカ中央研究所
2001. 03	ユニチカガラスファイバー(株)京都工場
2001. 03	(株)ユニチカ環境技術センター近畿事業所
2001. 10	ユニチカ岡崎工場
2001. 10	ユニチカ設備技術(株)中部事業所第2事業本部
2001. 10	日本エステル(株)岡崎工場
2001. 10	(株)ユニチカ環境技術センター中部事業所
2001. 12	ユニチカ垂井事業所
2001. 12	ユニチカ設備技術(株)垂井グループ
2003. 12	ユニチカガラスファイバー(株)垂井工場
2004. 02	ダイアボンド工業(株)
2004. 09	テラボウ(株)
2008. 06	(株)ユニオン

環境中期計画

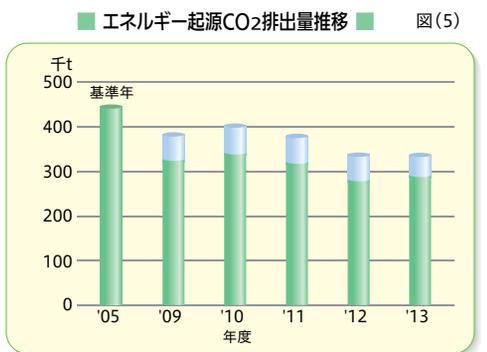
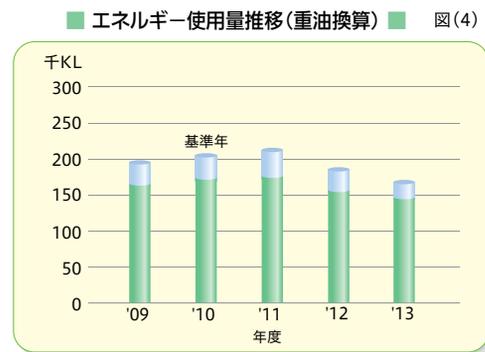
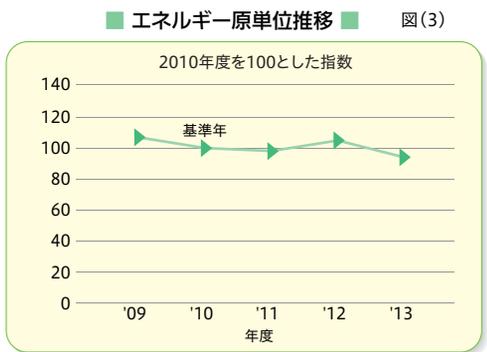
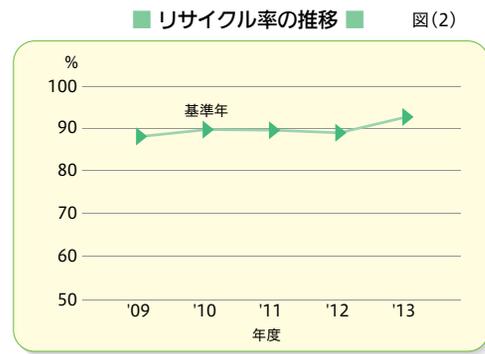
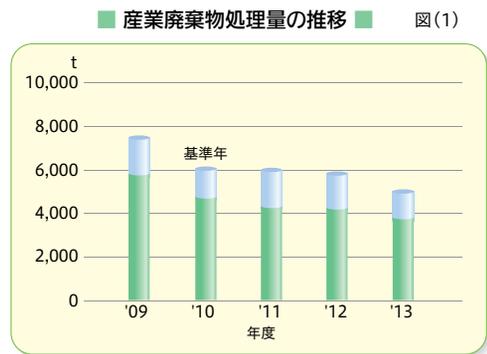
私たちユニチカグループは、環境中期計画を策定して、産業廃棄物の削減と資源・エネルギーの効率的利用を重点目標に計画的な改善に取り組んでいます。

第6次環境中期目標からは、国内グループ会社を新たな対象範囲として含め、2010年度の結果を基準にして目標を策定し取り組んでいます。

●第6次(2012年度～2014年度)環境中期計画

重点課題	目 標	2013年度の結果	図No.
1 産業廃棄物処理量の削減	2010年度比4%削減	達成	(1)
2 生産工程内ロスのリサイクル率の向上	2010年度比1%向上	達成	(2)
3 エネルギー原単位の改善	前年度比1%改善 (最終年度は2010年度比4%改善)	達成	(3)
4 エネルギー使用量の削減	2010年度比4%削減	達成	(4)
5 エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量の削減	2005年度比10%削減	達成	(5)

(注) 第6次環境中期計画対象範囲: 国内事業所、事業所内グループ会社、および国内事業所外グループ会社



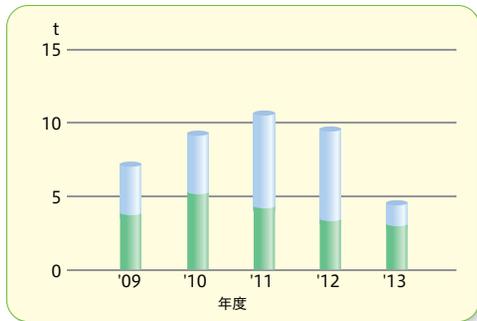
■ ユニチカ国内事業所および事業所内グループ会社  
■ 事業所外グループ会社

(注) エネルギー原単位 = エネルギー使用量(原油換算)(千KL) / 生産高(千トン)

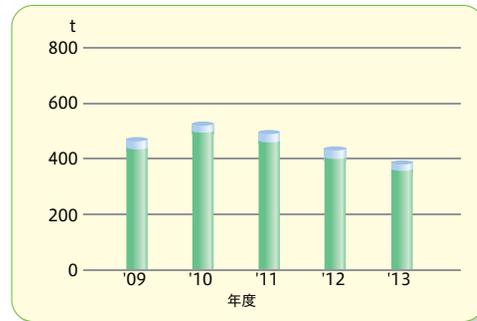
大気と水域への環境負荷低減

各生産拠点にて重油から液化天然ガスへのエネルギー転換、ディーゼル発電の停止等の施策により、ばいじんやNOx、SOxおよび、CO2の削減に努めています。また、排水処理設備の適切な管理により、水質への負荷量低減に努めております。

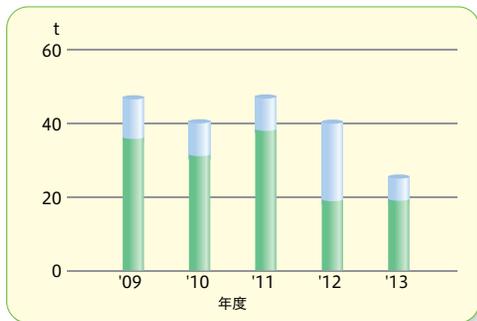
■ ばいじん排出量推移 ■



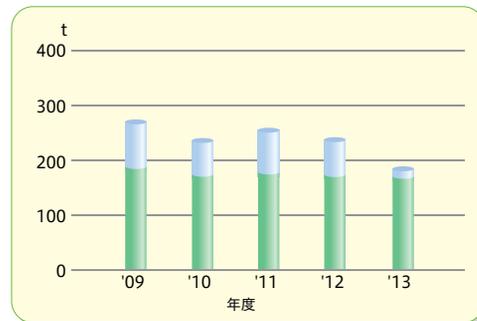
■ NOx排出量推移 ■



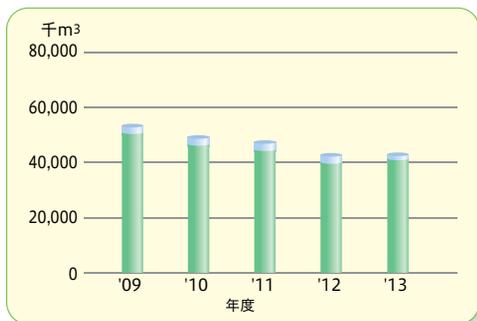
■ SOx排出量推移 ■



■ 水域への負荷(COD)推移 ■



■ 総排水量推移 ■



■ ユニチカ国内事業所および事業所内グループ会社  
■ 事業所外グループ会社

(注) NOx: 窒素酸化物 SOx: 硫黄酸化物 COD: 化学的酸素要求量

トピックス TOPICS 「神奈川総合高等学校 第12回環境シンポジウム」での講演

3月18日(火)に神奈川県立神奈川総合高等学校が開催する「第12回環境シンポジウム」にお招き頂き、18団体の1つとして当社も参加しました。自主性を重んじる同校は学生主体でシンポジウムを企画・運営。昨年12月「エコプロダクツ」会場にて担当学生から講演依頼を受けました。演題『トウモロコシからプラスチックを作る!? ～「化学」にできるECO、「ユニチカ」ができる地球への貢献～』でテラマックがなぜ地球に優しいのかを紹介しました。

【学生の声(抜粋)】

- ・トウモロコシからプラスチックができること、CO2が循環する製品であることがスゴイ!と感じました。
  - ・身近なところで使われていることに驚きました。もっともっと広がってほしいと思います。
- このような啓発の機会をこれからも大切にしていきます。



化学物質管理への取り組み

●PRTR制度届出対象物質の管理

ユニチカグループでは、人の健康や生態系に害を及ぼすおそれがある化学物質として、PRTR制度対象（化学物質排出移動量届出制度）物質について、環境への排出量の把握と削減に努めています。2008年度に比べ、2013年度は排出・移動量を約50%削減することができました。

■ 2013年度 PRTR制度届出対象物質の排出量と移動量 ■

PRTR対象物質の名称	排出量			移動量
	大気	水域	計	計
アセトアルデヒド	5	2	7	0
ε-カプロラクタム	16	1	17	0
ジクロロペンタフルオロプロパン(HCFC-225)	2	0	2	0
ジクロロメタン	24	0	24	11
ジメチルホルムアミド	1	0	1	0
テレフタル酸	0	0	0	2
トルエン	3	0	3	4
ホウ素及びその化合物	0	11	11	3
ジフェニルエーテル	0	0	0	0
水素化テルフェニル	0	0	0	1
ユニチカ国内事業所 および 事業所内グループ会社 合計	45	14	59	16
ユニチカ事業所外グループ会社 合計	6	0	6	8

(トン/年)

■ PRTR制度対象物質の排出量・移動量 ■



●国内外の化学物質管理の推進

ユニチカグループでは、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）や欧州化学品規制（REACH）をはじめ、制度化が進むアジア各国の化学物質管理制度への対応を推進しています。また、法令改正対応や情報交換を目的とした会議によって関係者間の情報共有を図ると共に、グループ内への情報発信にも努めています。

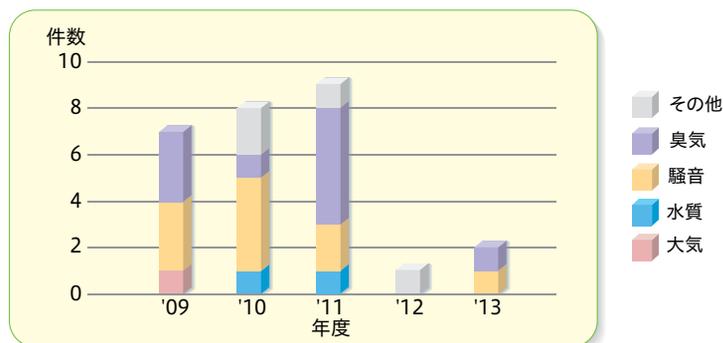
物流にかかわる環境負荷の低減

物流においては、モーダルシフト、輸送効率化などを進め、原材料、製品、廃棄物などの搬入と排出に伴う環境負荷低減に取り組んでいます。ユニチカが特定荷主（輸送量：30百万トンkm/年）として行政へ届け出た2013年度の輸送量は83.1百万トンkm、CO<sub>2</sub>排出量は26.5千トンとなりました。

環境に関する苦情

ユニチカグループでは、地域住民の皆様から頂きました苦情に対して真摯に向き合い、その原因を究明して対応すると共に、地域住民の皆様とコミュニケーションを図りながら再発防止に努めています。今後も皆様の快適な生活環境に貢献できるよう改善に努めてまいります。

■ 近隣からの苦情件数(原因別) ■

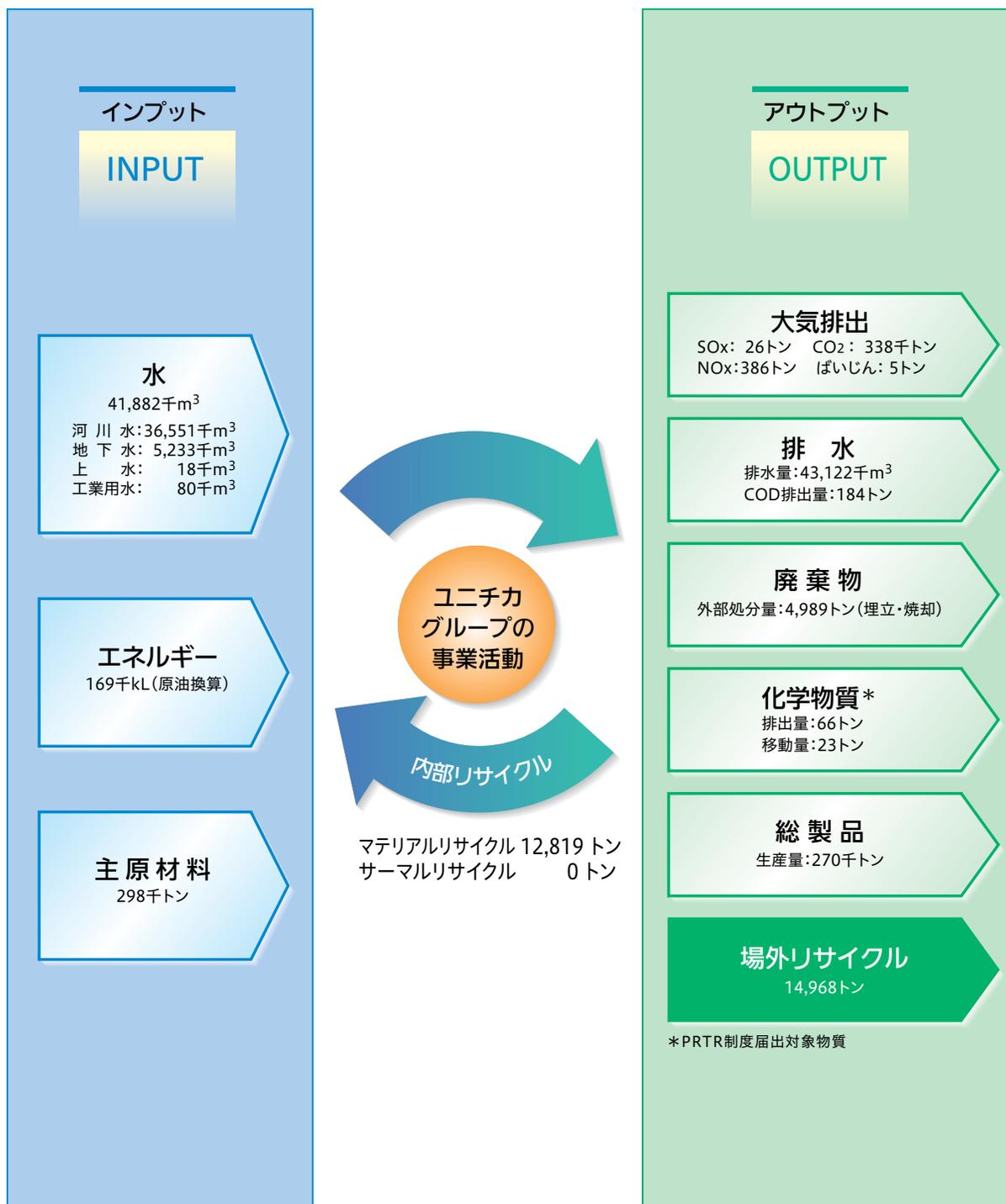


対象範囲：ユニチカ国内事業所および国内グループ会社

環境負荷の全体像

●事業活動における環境負荷(2013年度実績)

2013年度におけるユニチカグループのマテリアルフローは、下図のとおりとなりました。



環境会計

ユニチカグループは、環境に配慮した事業活動の一環として環境会計に取り組んでいます。会計の算定にあたっては、2005年2月に環境省から公表された「環境会計ガイドライン2005年度版」を参考にしております。ユニチカグループは、今後もより正確でわかりやすい環境会計の公開を続けていきます。

●環境会計の目的

- 環境保全に関する投資額や費用額の定量的把握、環境保全への取り組みの合理的な意志決定
- 環境会計情報のステークホルダーへの開示と説明責任の履行

●環境会計の集計方法

集計範囲：ユニチカ国内事業所および事業所内グループ会社、(株)ユニオン
対象期間：2013年4月1日～2014年3月31日
集計方法：投資額には環境を主目的としていない案件の環境投資分を含みます。また、費用額には労務費、経費、減価償却費を含みます。

ユニチカグループの2013年度環境投資額は294百万円でした。環境負荷の低減対策や原材料リサイクルに関するものが主な投資対象となっています。

また、環境保全に関わる費用は1,662百万円でした。主な費目は公害防止設備の維持管理、廃棄物の処理(リサイクル費用を含む)、環境配慮型製品や技術の研究開発、および緑化活動や街中の美化活動などの社会活動も含まれています。

●環境保全コスト

(単位:百万円)

区分	2013年度		備考	
	設備投資額	費用		
事業エリア内コスト	公害防止コスト	200	659	公害(水質・大気・騒音)防止対策
	地球環境保全コスト	6	39	省エネルギー、地球温暖化防止
	資源循環コスト	93	328	廃棄物発生量削減、原材料リサイクル
上・下流コスト	—	1	グリーン調達	
管理活動コスト	—	77	環境マネジメントシステム維持、環境教育、負荷監視	
研究開発コスト	—	505	環境配慮型製品や技術の開発	
社会活動コスト	—	39	緑化改善、美化運動	
環境損傷対応コスト	—	13	環境賦課金	
合計	294	1,662		

●経済効果

算定根拠が明確で、実質的な対環境保全効果の高い項目について計上しました。なお、推定的な効果は算定していません。

(単位:百万円)

項目	2013年度
リサイクルによる有価物の売却益	76
省エネルギーによる費用削減	34
省資源および廃棄物削減に伴う費用削減	23
循環による用水節減	4

環境保全のための商品と技術

植物由来のバイオマス素材

●テラマック®

『テラマック®』は、植物由来のポリマーからなるバイオマス素材であり、最終的にはCO<sub>2</sub>と水に分解され、その後植物に吸収されて、再び『テラマック®』になります。現在、『テラマック®』はポリ乳酸(Nature Works社、Ingeo)を用いています。『テラマック®』の用途は包装フィルム、食品容器、ティーバッグ、浴用タオル、土木資材、電子機器部品など、生活の全般をカバーしつつあります。なかでも、ポリ乳酸由来の製品として世界で初めてユニチカが開発した耐熱発泡容器・耐熱食品容器は、熱湯注入や電子レンジでの加熱にも耐えることから、世界的に注目されています。また、耐久性や耐熱性の点で厳しいスペックが要求される携帯電話の筐体や、難燃性も要求されるデジタル複合機のパーツにも採用されています。2012年1月には、バイオマス素材比率を80%以上に高め、耐衝撃性と耐熱性をABS樹脂レベルに向上させた耐衝撃射出成形用樹脂を開発しました。

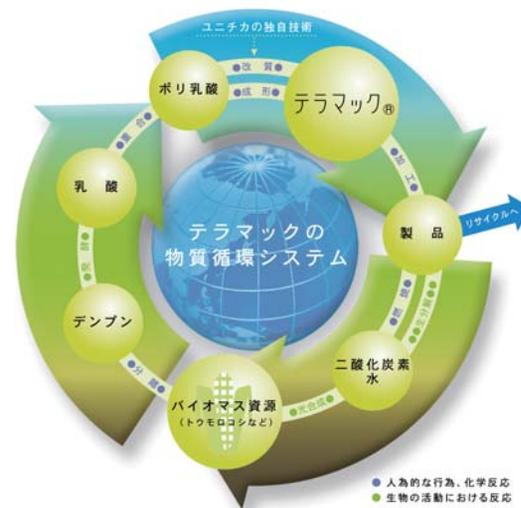
2011年5月より、ユニチカオンラインショップ(<http://www.utk-shop.jp>)で、カーボンオフセット付のテラマック使用製品の販売を始めました。原料調達から製造、物流、廃棄までで発生するCO<sub>2</sub>の排出量を把握し、削減努力だけでは対応しきれないCO<sub>2</sub>を、森林吸収源プロジェクトから創出された排出権を用いて埋め合わせすることで相殺(オフセット)します。ユニチカはオフセット事業に取り組むことによって温室効果ガス削減に貢献していきたいと考えており、ユーザーの皆さまには『テラマック®』を使用したエコ商品にカーボンオフセットを行うことで、さらに環境にやさしい商品をお求めいただけます。

植物の恵みと人の技術から生まれた『テラマック®』。地球と人に選ばれる理想の素材を目指しています。



カーボンオフセット付テラマック製品

テラマック®は、自然のライフサイクルの中で生きています。



環境配慮型スーパーエンジニアリングプラスチック

●ゼコット®

スーパーエンジニアリングプラスチックとして活躍する、高耐熱ポリアミド樹脂「ゼコット®」。トウゴマの種子から抽出したひまし油を原料としています。従来の耐熱ポリアミド樹脂に比べ、最も融点が高く、耐熱性に優れています。また、低吸水性、耐薬品性、電気特性、摺動性にも優れた性質を持っており、電気・電子部品、自動車部品、耐熱フィルム、耐熱繊維などの各種分野での展開を目指しています。環境保全に貢献しながら、高機能・高品質で応えるバイオマスプラスチックです。



唐胡麻の種子



ユニチカ復興地域再生支援チーム

ユニチカグループの力を結集し、  
復興地域の未来を  
サポートします。



ユニチカは東日本大震災の復興支援を目的に、グループ企業、事業部の力を結集し、「復興地域再生支援チーム」を立ち上げました。不織布や産業資材、繊維、環境調査・計測などの各分野でこれまで蓄積してきた技術や実績を活かし、瓦礫や廃棄物処理、除染に役立つ製品のご提案、放射線計測などの事業を展開。ユニチカグループとしての総合力で、豊かな地域再生をお手伝いいたします。



廃棄物保管・運搬



●アピール  
高機能カバーリングシート  
防水性、消臭性、難燃性を持つ、瓦礫、廃棄物のカバーシート。宮城県内の震災瓦礫のカバーリングシートとして実績があります。



●アピール  
遮光性保護マット  
耐候性があり、熱融着性に優れた遮光性保護マット。ポリエステル/ポリエチレンの芯鞘構造糸からなる長繊維不織布「エルベス」を用いています。



●放射線遮蔽防水シート  
高比重無機物を含んだ複合繊維を活用した放射線遮蔽防水シート。従来の防水布、ターポリンと同等の強度、耐久性、耐候性、防水性、柔軟性を有しています。



●耐候性大型土のう  
耐候性に優れた高強力ポリエステル黒原着糸を使用していますので、長期間の屋外使用にも対応できます。1年対応タイプ、3年対応タイプがあります。



●搬出シューター  
(スカイウッドシュート)  
重機を使用せずに搬出を行うことができる、ポリエステル織布で作られた搬出シューターです。少人数で設置・操作でき、一定の集材能力があるので、瓦礫・廃棄物等の運搬、搬出に活用できます。



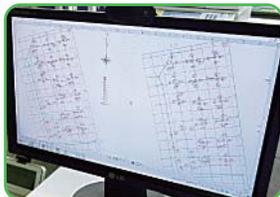
●テラマック土のう  
使用後、土中バクテリアにより二酸化炭素と水に分解されるポリ乳酸繊維を使用した、生分解性の土のうです。一般土のう(20kg)タイプ以外にも、大型土のう(1.8t)タイプも対応できます。



●エルベスカッピングシート  
ポリエステル/ポリエチレンの芯鞘構造糸からなる長繊維不織布「エルベス」を用いた、ガス透過性防水シート。原反端部を事前に加熱圧縮することにより、現場溶着部の遮水性を実現しました。

ユニチカ復興地域再生支援チーム

調査・計測



●放射線将来予測

数年後の放射線量率をシミュレーションします。一般の方に理解しやすい放射線分布図を提供します。



●除染等業務特別教育

第1種放射線取扱主任者が現地で教育します。多忙な放射線管理者の負担が軽減できます。



●放射線現地調査

専門の計測員が測定します。信頼あるモニタリングデータを得ることができます。



●放射能測定

国際認定規格ISO17025を取得しました(食品分野)。信頼ある放射性物質の測定値を提供できます。

除染関連



●セシウム吸着繊維材  
CsCATCHER(シーエスキャッチャー)

水中に溶出しているセシウムを選択的に吸着させることが可能な、プルシアンブルーを利用した繊維製品。セシウムを吸着したプルシアンブルーの脱落による二次的な汚染を防ぐことが可能です。



●防護服

ポリエステル/ポリエチレンの芯鞘構造系からなる長繊維不織布「エルベス」と高性能透湿防水フィルムを組合わせたタイプや、生分解性不織布「テラマック」をベースに使用したタイプなどの防護服素材を用意しております。



トピックス TOPICS 「RADIEX2013」に出展

ユニチカ復興地域再生支援チームは、9月25日(水)～27日(金)に科学技術館にて開催された「RADIEX2013(環境放射能除染・廃棄物処理国際展)」に出展しました。除染廃棄物仮置き場上部シートとして採用が進んでいる「エルベスキャッピングシート」、廃棄物一時保管で実績化されている「放射線遮断防水シート」、除染・二次汚染防止分野で現場実験を重ねている「CsCATCHER(シーエスキャッチャー)」を中心に展示しました。具体的な採用事例、検証結果を積み重ねていることから、より実践的な技術を提案、紹介する内容となり、来場者からも現場使用における具体的な質問を多くいただきました。



## 事業所情報

事業所	大気				水質							所在地	
	SOx	NOx	ばいじん	BOD	COD	浮遊物質	油分	全窒素	全リン	主要製品			
単位	K値	ppm	ppm	g/Nm <sup>3</sup>	mg/L	kg/日	mg/L	mg/L	mg/L		kg/日	mg/L	kg/日
<b>宇治事業所</b> 【敷地面積】311,781m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 E-0249	—	29	199	0.025	—	1131	30	16	—	722	—	98	京都府宇治市宇治戸ノ内5 ナイロン樹脂、ナイロン繊維、 エンジニアリングプラスチック、 ナイロン・ポリエステルフィルムなど
<b>岡崎事業所</b> 【敷地面積】313,865m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 E-0292	—	93.3	100	0.05	25	719	20	10	15	385	2	51	愛知県岡崎市日名北町4-1 ポリエステル樹脂、 ポリエステル繊維、 スパンボンド(長繊維不織布)、 医療用具など
<b>坂越事業所</b> 【敷地面積】191,236m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 E-0976	—	—	89.3	0.12	—	348	3.9	10	15	—	2	—	兵庫県赤穂市高野846 ビニロン繊維 (セメント・ゴム補強、畳糸、製紙用 バインダーなどの産業資材向け)
<b>垂井事業所</b> 【敷地面積】156,224m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 E-0323	11.5	—	180	0.3	40	109	50	5	120	43	16	5.6	岐阜県不破郡垂井町2210 綿不織布、ガラスクロス
<b>常盤事業所</b> 【敷地面積】64,530m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 E-0221	17.5	—	130	0.3	80	—	100	2.5	—	—	—	—	岡山県総社市中原88 純綿糸、合成混紡糸と純綿糸、 合成混紡糸の織物
<b>豊橋事業所</b> 【敷地面積】270,804m <sup>2</sup> ISO14001 認証番号 —	0.49	—	180	0.3	—	11.9	70	5	120	—	16	—	愛知県豊橋市曙町松並101 不織布 (土布・ルーフィング用シート)、 バイオ事業(ハナビラタケ)

※表の数値は  $\frac{\text{規制値}}{\text{2013年度測定値}}$  です。

- 注1: 規制値は法(大気汚染防止法、水質汚濁防止法)、条例、県指導、協定の中で最も厳しい値を示しました。
- 注2: 事業所敷地内の関係会社の環境負荷分も含まれます。
- 注3: SOxは硫酸酸化物、NOxは窒素酸化物、CODは化学的酸素要求量、BODは生物化学的酸素要求量です。
- 注4: 大気については各事業所にあるそれぞれの設備の内、主要設備の測定値を記載しました(総量は事業所全体の値)。
- 注5: 水質については各事業所で最も高い値を示した排水口の測定値を記載しました(負荷量は事業所全体の値)。



お問い合わせ先

**ユニチカ株式会社**

〒541-8566 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号 CSR室CSRグループ：TEL 06-6281-5125

ホームページ： <http://www.unitika.co.jp/>